



ふれあい スポーツ

発行
滋賀県障害者スポーツ協会
〒520 大津市御陵町4-1
滋賀県立スポーツ会館内
☎ 0775-22-6000
FAX 0775-21-8118

「友いま集い 愛いまあふれ」 9月21・22日、北海道札幌市 ゆうあいピック北海道大会



競技終了後グラウンドに整列した選手たち

「友いま集い 愛いまあふれ」のスローガンのもと、ゆうあいピック北海道大会が9月21・22日、北海道札幌市厚別公園陸上競技場を中心に開催されました。

全国47都道府県・12政令指定都市から約四三〇〇人の選手・役員が集まり、知的障害者のスポーツ最大の祭典が北の大地に繰り広げられました。昨年、開催が予定されていたゆうあいピック兵庫大会は残念ながら阪神大震災の為に中止とな

りました。更に、群馬大会では奮わなかったフライングディスクに於いても出場の種類目全てでメダルを獲得した他、今回が初出場の団体競技のサッカー競技も強豪群馬チームを4対0で破り、準決勝の神戸戦では破れたものの見事に3位入賞を果たし、さいさきの良いスタートとなりました。また、卓球に於いては、女子の部で圧倒的な強さで群馬大会に引き続き金メダルを獲得、なんと、ゆうあいピック3連覇を成し遂げました。

このように、全種目に渡り練習の成果を遺憾なく発揮した滋賀県選手団は、金8、銀11、銅11を獲得し、金メダルの数では群馬大会に及ばなかったものの、総メダル数においては3個上回る30個のメダルを獲得する素晴らしい成績を挙げました。また競技を通じて友情が芽生えたりするなど、選手同志の親睦が深まり、サッカー競技に於いては大会終了後、愛知県のチームとの交流試合が行なわれる等非常に思い出深い大会となりました。

そして、競技終了後の後夜祭では、全国から集まった選手たちの交歓が最高潮に達し、北の都の祭典、ゆうあいピック北海道大会は幕を閉じました。

なお、来年「ゆうあいピック愛知・名古屋大会」は「力いっぱい、愛いっぱい」をスローガンに、10月18・19日に愛知県名古屋瑞穂公園陸上競技場を中心に開催される予定です。

スポーツと私



今津町 三村たみ

私が障害を持ったのは、今から十余年前の事です。

戦時中に青春時代を過ごし、男子は全て戦場に送り、留守を守るのは女と老人でした。

一粒でも、一品でも多く生産するのに一生懸命で、スポーツを楽しむ事など到底考えられませんでした。今から思うとまるで漫画のような一二代記でした。

ある時、突然腰の手術をすると言われ、一時はどうなることかと不安に明け暮れ、食も喉を通らぬ程でした。しかし、良いほうに解釈し、医師を信用しお願いすることに決めました。

何ヶ月も家族の世話になり、周りの人に支えられて無事退院する事が出来ました。退院後の事は本人の今後の養生次第、頼りになるのは足だけで、腰はもう駄目です。」と医師に言い渡されましたが、泣くにも泣きません。「なに、負けるものか!こんなに元気になりました」と笑顔で先生に話せるようになろう。」と自分に言い聞かせながら、無理をしないよう、後戻りをしないようにと、雨の日も雪の日も、一日一歩ずつ伸ばしながら五年余りもハビリのつもりで歩くことに専念しました。

ようやく自信が持てるようになった頃、先輩でもあり、恩人でもある方から、「県のスポーツ大会があるから、一度見に行かないか。」と誘われました。それから二・三日して、「同じ見に行くのなら、ボール位は転がしてみよう。」と言われ、「これは大変な事になった、出来るだろうか。」と案じながら出場しました。

しかし、これが幸いなのか全国大会の選手に選ばれましたが、一生に一度しか出場する事が出来ない大会だと聞かされ、幸運と不安が入り交じりました。出場種目は槍投と走幅跳です。持った事も、見た事もない槍をじっと見つめ、こんな長い物が投げられるのだろうか、と思いましたが、しかし、指導員の方々に親身になって教えて頂き、どうにか土に刺さるようになった時の嬉しさは今も忘れる事が出来ません。走幅跳は夏休みに小学校の砂場を借りて練習を続けました。

大会ではお蔭様で二種目とも金メダルを頂く事が出来、役員・指導員の方々に高齢の者にここまでお世話頂いた事を今もって感謝致しております。

色々な経験をさせて頂き、これからも健康に気を付けながら私に何がどこまで出来るか分かりませんが、足手まといにならないように、皆さんとお会い出来るのを楽しみにしながら、一層スポーツに励み、楽しい汗が流せるように、指導員として皆さんと一生懸命頑張っ

大会マスコット



ピックル

北の大地が熱く燃えた！ ぼくらの思い出 ゆうあいピック北海道大会

感動の一杯詰まった宝の箱

ゆうあいピック北海道大会団長 池田 廣



開会式での池田団長(写真右)

「僕 泣かないよ。」卓球でフルセットの大接戦の末、ようやく勝利した選手の最初の言葉である。表現が豊かではないけど

スポーツを継続出来る環境を

団体競技監督 古谷 吉伸

ゆうあいピック北海道大会に団体競技としては初めて滋賀県からサッカーを送り出して頂く事になりました。

信楽学園、信楽通勤寮生をベースにしたチーム編成で全国の初舞台を踏んだわけですが、レベルは高く様々な教訓を得ることが出来ました。

当チームは当初から連合チームを編成していたわけではなく、サッカーの経験者が皆無のメンバーで、とにかくスポーツを楽しむというので約2年前から各々活動を展開していました。しかし、やるからにはテクニクは勿論の事、ルールを学習し、チームとしてのまとまりを

形付けるまでは試行錯誤の連続でした。当園ではサッカーを存分にやるにはスペースが少なく、寮のガラスの破損が続いたり、隣の民家の屋根をボールが直撃したり、また、足首を痛める者等が連続しました。それでも彼らは暇があればボールを蹴り、楽しみを見いだしてくれたようです。時に信楽地区では、サッカーが盛んでスポから社会入りするまで様々な団体の活動があります。不完全ではあるもののチームも成立し、交流の場面があればとの思いで地域に声掛けしましたところ、ママさんチームに快く引き受けて頂きました。

かしいばかりの一言が、かえって私に大きな感動を与え、涙をこらえるのに必死だった。「泣きたいほどの凄く嬉しい。」と言いたかったのだろう。...

競技が始まった途端、別人の様な頑張りを見せる選手たち。「えっ！あの子があんなに泳げるの！」「へえ！あんな難しいサーブが出るの！」

一見頼りげない日頃の振舞いからはとても想像出来ない。各会場巡りをして凄く驚嘆させられたものである。

コーチ陣の苦労は本人達の努力と共に大変なものであったと思う。

選手本人が意識しようとしても、スポーツによって開発された素晴らしい能力は自然に本人の財産となり、社会参加・自立への大きな礎となるだろう。大会を通じて、役員・介護スタッフの献身的な努力に頭の下がる思いがした。

かつて私は障害者スポーツに全く理解がなかったし、又、しようとしてもしなかった。それは、アトラクタオリンピックの後のパラリンピックが殆ど報道されないように、見る、知る機会がなかったからである。マスコミはせて国内の最大規模の大会「感動の一杯詰まった宝の箱を開け、かつての私のような多く

家事を済ませての時間帯ではありますが、そのハッスルぶりには敬服致しました。ママさんパワに太刀打ち出来ず、ぶっ飛ばされる者もありましたが、これが縁で定期的に練習をさせて頂く事になり、サッカーを通じて地域との相互理解が非常に深まり、共に楽しめる事を大きな成果として得る事が出来ました。

全国大会では、お蔭さまで3位入賞を果たす事が出来、彼らの努力を形として残すことが出来ました。しかし、今後このチームを存続させる事が可能かとの問題があります。

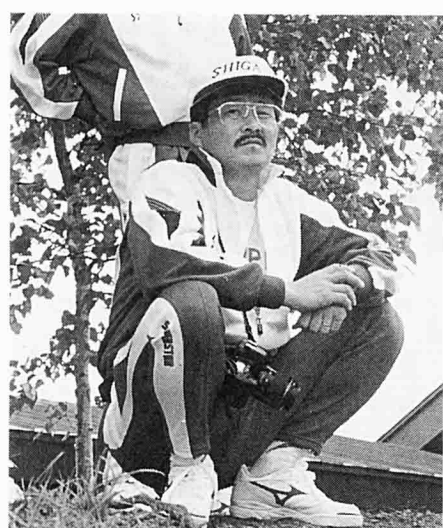
全国大会のチームは大半が常連でメンバーも固定しています。団体競技ではリードする母体が必要ならば、どうしても継続が難しいところがあります。神戸市

の人たちに情報を提供すべきであるうし、又、我々にはそれとさせる運動も大切であると思う。ともあれ私にとっては人生のあゆむべき方向が更に明確になった、「ゆうあいピック北海道大会」であった。

追記

後夜祭で明日からの夢を語り合っていた。五十嵐勇喜子さんが、22日宿舍到着後、私たちが部屋の前で突然昏倒し、その後日時を経ずして不帰の人となられた事は大変残念であり、ご冥福を祈るばかりである。合掌

のが現実です。今回のゆうあいピックを契機に、日頃からスポーツを通じて集い、楽しみ、それでいて継続出来るような環境の拠点作りを模索して行かねばと痛感致しました。



選手たちのプレーを見守る古谷監督

水泳をして よかつたね

信楽学園 横江 拓哉

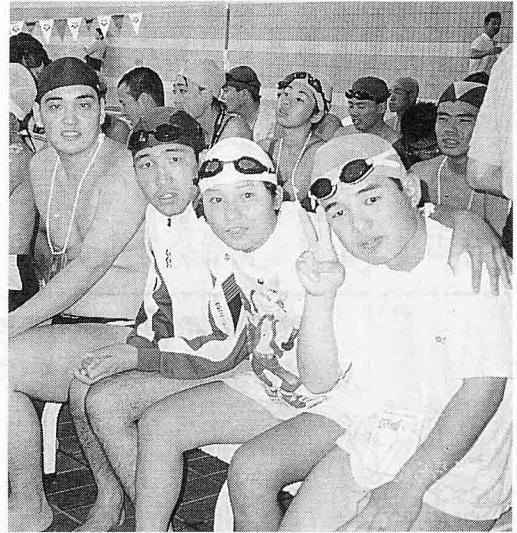
九月二十日、水泳競技のれんしゅうをしました。

ぼくは、二十五mの平泳ぎと五十mの平泳ぎがとくいです。

二十一日、試合があつて、みんなの人がいました。

お父さんとお母さんが来ました。とても応援にきてうれしかったです。

レースの結果があがつて、金と銀メダルで3つもりました。とてもうれしかったです。増田先生と今村先生がいて教えてくれたのです。



水泳をしてよかつたね。これからもどん泳いで、

いいきろくをだしたいね。来年は名古屋で会おうね。

ピースサインでカメラにこたえる横江選手(写真右)

感動して泣いた

栗東町 宮城 伴明

北海道大会で一番良かったのは、友だちとたくさんしゃべって仲良くしたり、おふろ場でしゃべったことです。

9月20日の前日練習の時は、すこし雨がふったけれど、がんばって練習をしました。広島には、負けたくなかった。ピック

ルくん、ピックルちゃんにもはじめてあつて、握手したことです。

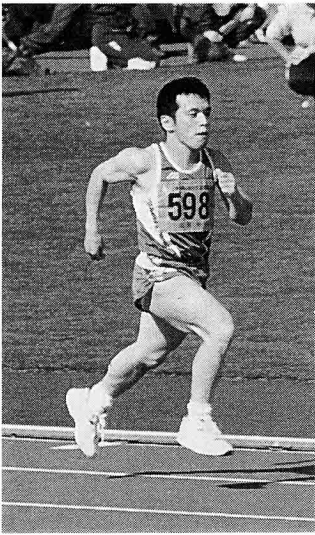
一日目は100m走と400m走に出場しました。100m走の自己新記録を達成しました。13秒40でした。3位で銅メダルをもらいました。

3位に入賞するなんて、思つていませんでした。400mも自己新記録を達成しました。1分9秒1で残念ながらメダル

はもらえませんでした。5位に入賞して本当にうれしかった。泣いてしまいました。先生達にはげましてもらつた。「よくがんばつた。」といつてくれた。

二日目はリレーに出場しました。みなさんのおかげで3位に入賞して銅メダルをもらいました。また、泣いてしまいました。みんなが、「おめでとう。」といつてくれたり、「よくがんばつたね。」といつてくれた。

ぼくは感動して泣きました。みんなで写真をとりました。ゆうあいピックで一度も泣いたことがないぼくが、こんなに泣くなんてはじめてです。先生、コーチ達のおかげです。友人たちとたくさんしゃべつて、いろんなことをお話しして本当によかつたです。



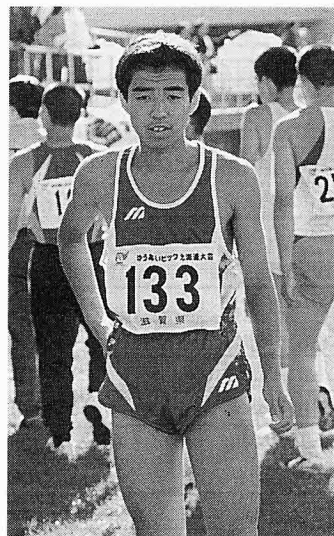
メインスタンド前を疾走する宮城選手

来年こそ メダルを

しゃくなげ園 太附 正彦

ぼくははじめてゆうあいピック北海道大会に出場しました。

6月から暑いなかをいっしょうけんめい練習してきました。



競技直前。いささか緊張気味の太附選手

そして9月21日、第1日目の大会がはじまりました。ぼくははじめ、50mを走りました。つぎに100mを走りました。2つとも5位でした。くやしうけどがんばつて走りました。由井君はソフトボールと100mは2位でした。はやかたつたです。

今度は2位に

信楽学園 中居 宏二

ぼくは、ゆうあいピックの入門テストがありました。最初のテストは、どこまできつく打てるか、どこまで打ち続けられるかが問題だった。テストが終わつた後、ぼくは弱音な発言をしました。「オレは、たぶん落ちてしまうかもしれんわ。」と言つてしまつた。

その後、「中居君はラリーを続けているし、おまけにスマッシュを打てるし、君は合格や、北海道でがんばつて下さい。」と言われた後、うれしかった。

学園の練習相手はサッカー部以外は大した相手ではなかつた。ゆうあいピックの練習会はき

ついたらトレーニングをしていた。スマッシュの打ち方、ドライブを打つ時の脇のしめ方はきつかつた。フットワークは平均点の3だつた。本番になるまで練習を続け、それを全国の人達に勝つためのトレーニングだった。「本番になるまでリラックスしろ。」と言われた。

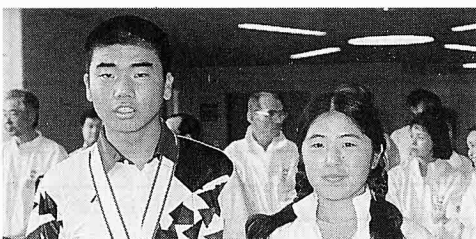
9月19日本番、北海道について、ホテルに卓球台がありまして、それを利用しての作戦会議をしてばかりだつた。

一日目の試合は、みやぎ県の黒田君と対戦をして、前半は攻め続けて15点を先取したが、後半になると計算が狂つてしまい相手にチャンスを与えず、あつと言う間に21対15で負けました。2セットもさつきの

神谷君は、1日目は50mでした。3位でした。9月22日、第2日目の大会がありました。ぼくと、由井君と宮君と、宮城君と4×100mリレーをはりました。ぼくは2番めで、由井君は3番めでした。滋賀県は3位にはいりました。ぼくだけメダルがなかつたけれど、リレーでやつとメダルがもらえました。神谷君は立幅跳でした。3位にはいりました。3人も金メダルはとれなかつたけれど、でも、銀メダルや銅メダルがとれました。来年は名古屋であるので、いけたら来年こそメダルをたくさんとりたいたいです。

くり返した。また、チャンスを与えずに21対11で負けてしまい、結果は4位だつたので今度は2位をねらつてがんばつていきたい。

お世話になった介護の中林さんとの一コマ



決勝戦にのこれる ようなプレイを

信楽学園 伊吹 和也

全国からぞくぞくとサッカー会場へきていた。一試合目は群馬県チームとあたっていた。ほかのチームは勝ちぬいて、二回戦へすすんだ。二試合目は神戸戦でおしくもやぶれ、決勝戦にはすすめなかつた。

ぼくらのチームはトラップやミスをしていたので負けました。ぼくはドリブルに持ち込んだがシュートははいらなかつた。お客さんや相手のチームもおうえんしてくれていました。群馬県はスピードが速かつただけで、神戸戦ではマークをさられたり、ピットリボールをとら



初参加で見事3位入賞を果たしたサッカーチーム

れたのでくやしかつたです。ぼくはオフサイドをしていたのでわるかつた。もし神戸戦に勝っていたら、北海道と対戦していたかもしれない。けれどもぼくたちのチームは三位だった勝って、一位になって、金メダルをとりました。

これまで、北海道大会に行けたのも、先生たちや、県の人たちや、かんとくや、コーチのおかげです。すばらしい北海道のグラウンドでやらしてもらえて良かった。もう一度、滋賀県代表になって、サッカーのチームをつくって行きたいと思えます。ゆうあいピック名古屋大会に向けてがんばりたいと思います。次は決勝戦にのこれるようなプレイをしたいです。

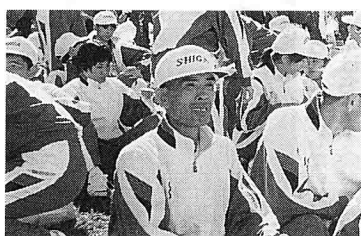
沢山の出会い

たけのこ作業所

赤田 正由

ぼくは、群馬大会にもフライングディスクに出場して、銀メダルをもらいました。札幌大会では金メダルをと思い、一生懸命毎日練習をしましたが、アキユラシーは銀で、ディスタンスが銅メダルになり残念です。前日の練習では、台風のためすごい風と雨でした。でも当日は、良い天気で沢山の選手に出逢いたかつたです。

後夜祭も楽しくすごうれしかつた。でも、あとで聞きましたが五十嵐先生が、そのあと倒れられ病院で亡くなられたとか。智佳さん、みさきさん、これから負けずにがんばって下さい。



開会式を待つ赤田選手



ゆうあいピック北海道大会滋賀県選手成績表

氏名	種目	記録	順位	氏名	種目	記録	順位	
横江拓哉 (少年組)	25m平泳ぎ	22秒77	1	若井章吾 (青年組)	1500m競走	4分49秒00	2	
	50m平泳ぎ	45秒73	2		800m競走	2分19秒10	1	
辻明恵 (少年組)	25m自由形	20秒76	2	黒坂俊夫 (少年組)	走幅跳	5m16	1	
	25m背泳ぎ	30秒31	3		ソフトボール投	55m90	1	
斎藤政信 (青年組)	50m自由形	40秒03	4	神谷和俊 (少年組)	50m競走	7秒50	3	
	100m自由形	1分27秒15	3		立幅跳	2m27	3	
渡辺敦史 (少年組)	50m自由形	36秒19	1	由井信幸 (少年組)	ソフトボール投	46m74	2	
	50m平泳ぎ	43秒86	2		100m競走	13秒10	2	
五十嵐智佳 (青年組)	25m平泳ぎ	35秒07	5	太附正彦 (少年組)	50m競走	8秒0	5	
	50m平泳ぎ	1分13秒15	6		100m競走	14秒20	5	
五十嵐みさき (青年組)	1500m競走	6分52秒80	2	西村陽子 (少年組)	卓球	準決勝	2-0-0-0	1
	800m競走	3分24秒90	3			決勝	2-0-0-0	
小林千枝 (少年組)	100m競走	15秒50	2	三好俊明 (青年組)	卓球	一回戦	2-1-0-0	3
	50m競走	7秒90	1			準決勝	1-2-0-0	
宮智之 (青年組)	100m競走	14秒10	4	中居宏二 (少年組)	卓球	一回戦	0-2-0-0	4
	ソフトボール投	38m58	6					
辻正規 (少年組)	1500m競走	4分36秒80	1	新居政幸 (青年組)	フライングディスク	アキュア	3枚	3
	800m競走	2分17秒7(参記録)	8			ディスタンス	30m92	2
宮城伴明 (青年組)	400m競走	1分9秒10	5	赤田正由 (壮年組)	フライングディスク	アキュア	6枚	2
	100m競走	13秒40	3			ディスタンス	36m53	3
畑・峠・宮・誠 組	男子400mリレー	54秒0	3	藤・渡・北・颯 組	水泳100mリレー	1分22秒65	2	

(太字は自己新記録)

団体種目 サッカー 一回戦 滋賀4-0群馬 準決勝 滋賀0-4神戸

第15回滋賀県スペシャルスポーツカーニバル



くす玉わり競技での一コマ

7月14日(日)、県立長浜ドームにおいて、第15回滋賀県スペシャルスポーツカーニバルが開催されました。
知的障害者スポーツ最大の祭典として年々盛り上がりを見せるこの大会も、今回で15回目となり、さらに長浜ドームでの開催も4回目となった今回は、「げんき！ゆうき！えがお！」の溢れる大会となりました。
また、カーニバルを支える多数の競技役員も、前回にも増した熱心さで大会運営にあたり、選手たちと共に、爽やかな汗を流していました。

開会式では、滋賀県中部消防本部音楽隊の皆さんの素晴らしい演奏により、カーニバルの開幕の喜びと感動を、参加者一同で実感する事ができ、例年より一層華やかな開幕となりました。また参加記念メダル授与では今年も月光仮面が登場し、恐れたと共に大活躍？し、悪者の忍者からメダルを取り戻すという内容の劇仕立のセレモニーで会場をおおいに沸かせました。
また、集団種目の「くす玉わり」では、くす玉が割れても中身が出ないというハプニングもありましたが、くす玉が割れる度に会場から拍手が起こり、最後のくす玉が割れると、大きな

- ▼支部対抗リレー
 - 1位 湖南地区 1分15秒85
 - 2位 甲賀地区 1分16秒50
 - 3位 長浜地区 1分20秒23
- ▼一五〇〇m競走(男子)
 - 1位 辻 正規(甲賀) 5分01秒68
 - 2位 若井章吾(湖南) 5分17秒90
 - 3位 森地芳弘(甲賀) 5分59秒11
- ▼一五〇〇m競走(女子)
 - 1位 西村陽子(湖西) 7分40秒17
 - 2位 五十嵐みさき(湖南) 7分57秒07
 - 3位 久米田藤子(甲賀) 8分24秒14
- ▼八〇〇m競走(男子)
 - 1位 児玉恵一(守山) 3分29秒26
 - 2位 宮城伴明(湖南) 3分32秒00
 - 3位 中居宏二(大津) 3分52秒21
- ▼八〇〇m競走(女子)
 - 1位 田中久誉(甲賀) 4分35秒50
 - 2位 久米田智加子(甲賀) 4分39秒05
 - 3位 笠井洋子(八日市) 4分41秒27

- 4位 湖北地区 1分20秒27
- 5位 愛犬地区 1分22秒83
- 6位 湖西地区 1分29秒86
- ▼たけいびん
- 優勝 愛犬地区
- 準優勝 湖西地区
- 3位 湖南地区
- 4位 湖東地区
- 5位 近江八幡地区
- 6位 彦根地区
- 7位 草津地区
- 8位 守山地区
- 9位 八日市地区
- 10位 長浜地区
- 11位 甲賀地区
- 12位 湖北地区
- 13位 大津地区



初心者の参加も多かった15m競技

去る9月1日(日)、県立アーチエリー場に於いて、第34回滋賀県障害者スポーツ大会(アーチエリー競技)が開催されました。昨年は、生憎の雨天により、屋内での競技となり、30m競技が20mに短縮された為、上級者からは、「いささか物足りない」との声もありましたが、今年は見事に晴天。初秋の空の下、15m競技に参加の初心者はもちろん、上級者も2年ぶりに30m競技を満喫でき、全ての参加者にとって満足いく大会になりました。

第34回県大会(アーチエリー)

しかしながら、今年も参加者は増加に転じず、参加者を如何にして増やしていくかという根本的な問題がそのまま残り、参加者増加の為の「カンフル剤」的な策が望まれます。

アーチエリー競技は身障者も健常者も互角に戦える数少ないスポーツの一つです。射撃・アーチエリー等のいわゆる「静のスポーツ」は普段はあまり注目をされませんが、障害者は勿論、高齢者にも最適なスポーツと言えます。
家に籠もって、「スポーツなんてとんでもない。」と思っている貴方も、是非一度体験してみたいかがでしょうか。
なお、15m・30mの最高得点は次の通りです。

- ▲男子15m
 - 竹本 和夫(湖北) 274点
 - 伊藤美由紀(湖東) 278点
 - ▲男子30m
 - 畑 盛(草津) 312点



さて何点とれたかな？

'96立命チャレンジヨットin琵琶湖

9月8日(日)、滋賀県柳ヶ崎ヨットハーバーにおいて、立命館大学ヨット部からの招待による「'96立命チャレンジヨットin琵琶湖」が開催されました。

4回目の招待となる今回は、事務局の3名を含め38名の参加があり、例年にも増して賑やかな行事となりました。



昨年までは、7月の開催でしたが、今年は立命館大学の試験

との絡みもあり、2ヵ月遅い9月の開催となったため、湖上は若干肌寒いのではと思われましたが、当日は絶好のヨット日和となり、初秋の日差しの中、参加者達はそれぞれにヨットを満喫していました。

また、風の方も安定した北風で、「琵琶湖ではもっともヨットに適した風」とヨット部の方々が言われるだけあって、転覆などのハプニングもなく、中には

「転覆の一つもないとつまらない。」という声もありましたが、全員が無事にクルージングを楽しむことが出来ました。

中でも、出航前にはいざさか緊張気味だった初参加の方が、ヨット部の方の親切な指導により様々な操船作業にチャレンジされ、着航の頃には秋の日差しに日焼けした素顔から白い歯がこぼれているのが印象的でした。

また、例年参加されている方の中には、すっかりヨットマン気取りで操縦をこなし、部員の方を驚かしている方もあったようです。

そして上陸後は恒例となったバーベキューパーティーが催され、部員の方々との楽しい会話を通じて、更に交流を深める事が出来ました。こうして、今年のチャレンジヨットも、立命館大学ヨット部の皆様の暖かい好意の下、大盛会の内に幕を閉じました。

普段、湖の近くに生活をしている者でも、マリンスポーツに親しむ機会は少なく、本格的な競技用のヨットに乗れる貴重な体験を与えて下さった事に厚くお礼を申し上げます。10月末にこの琵琶湖でインカレが開催されるとの事ですが、立命館大学ヨット部の皆様のご健闘をお祈りしたいと思います。立命館大学ヨット部の皆様、本当にありがとうございます。

各種大会結果

▼第7回近畿身体障害者水泳選手権大会

平成8年7月7日(日)
於 大阪府立障害者交流促進センター

- △男子75m個人メドレー▽
- 1位 知念悟志 1分29秒82
- △女子25m自由形▽
- 7位 中江幸子 31秒06
- 2位 脇 恵子 22秒77
- △男子25m自由形▽
- 1位 田邊 智 17秒86
- 3位 中村金蔵 25秒96
- 1位 神蘭郁哉 22秒72
- 4位 谷口 稔 29秒22
- △男子25mバタフライ▽
- 1位 八戸 悟 22秒84
- △男子50m背泳ぎ▽
- 2位 伴 晴夫 53秒92
- 1位 田中光則 54秒85
- 2位 谷口 稔 1分03秒84
- △男子 m自由形▽
- 1位 二木清文 3分15秒36
- (大会新)
- △男子25m平泳ぎ▽
- 2位 中村金蔵 28秒15
- 1位 脇坂岩男 41秒97
- 1位 神蘭郁哉 41秒18
- △男子25m背泳ぎ▽
- 1位 田中光則 23秒93
- △男子 m背泳ぎ▽
- 1位 知念悟志 2分06秒99
- 1位 二木清文 1分42秒72
- (大会新)
- △女子50m自由形▽

- 3位 脇 恵子 50秒75
- △男子50m自由形▽
- 1位 青木和彦 43秒57
- 3位 伴 晴夫 40秒67
- 1位 駒井裕康 33秒84
- 1位 八戸 悟 38秒16
- ▼県民体育大会
- 平成8年8月4日(日)
- 於 栗東町営プール
- △30歳以上の部 50m自由形▽
- 予選7位 藤谷美恵 38秒13
- 決勝 " " 38秒94
- ▼第11回東海身体障害者バトミントン選手権大会
- 平成8年9月29日(日)
- 於 名古屋身障SC
- △女子ダブルスAブロック▽
- 2位 伊藤美由紀・安田明美組
- 4位 岡本佳子・他府県選手組
- △男子ダブルスCブロック▽
- 4位 山田恵三・他府県選手組

豊郷町役場
八日市土木事務所
八日市県事務所税務課
湖東福祉事務所
県教育委員会保健体育課
※以上集まった古切手等は県のボランティアセンターに送らせて頂きました。ご協力ありがとうございました。

編集後記

○北海道では、ゆうあいピック大会の前後にかけて雨で、大会初日の朝まで土砂降りでしたが本番の2日間だけ快晴に恵まれ競技が展開されました。

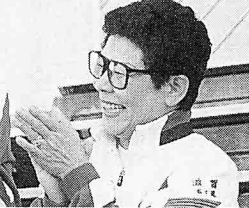
○北海道は、冷えるというこで「ゆうあいピック北海道大会」に臨みましたが、滋賀県の気候と変わりにくく選手のコンドーションもうまく調整でき、報告のように殆どの選手が入賞、自己新の好記録をだしこれからの活躍が期待されています。

頑張ってください。

○別掲のように、五十嵐勇喜さんが急逝されました。

あんなに元気で、ここやかに選手達の面倒をみ、指導を下さったのに。今は、選手一同茫然とそして悔しく、ただご冥福を祈るのみです。

○出場選手の大会の思い出などを特集しましたが、紙面の都合で一部の人に限られました。これから寒さが厳しくなってきましたが、くれぐれも御自愛のほどを。



ゆうあいピック北海道大会での五十嵐さん

墓銘碑

ゆうあいピック北海道大会の後夜祭終了後の9月22日夜、滋賀県選手団の役員として参加されていた、五十嵐勇喜さんがクモ膜下出血のため突然逝去して倒れられ、翌々日の24日夜そのまま帰らぬ人となりました。

享年55歳。五十嵐さんは県手をつなぐ育

事務局だより

◎古切手等回収協力者

- 大石 康雄
- 山田 恵三
- 今井キミエ
- 境 洋子
- 八日市市 谷田 惣七
- 守山市 大塚 弘
- 山川 昭市
- 津田 貞子
- 野洲町 田邊 悟
- 水口町 菊池 滋美
- 多賀町 脇坂 豊實
- 豊郷町 久保川一夫
- 高月町 東野 秀和
- 新旭南小学校あさひ1組2組
- 志賀町立和邇公民館